

令和4年度

米原市社会教育委員 提言書



～多世代交流型コミュニティ・スクールについて～

1 はじめに

米原市社会教育委員会議は令和元年度および令和2年度に「学校と地域の関わり、次世代育成に関する「コミュニティ・スクール」と社会教育の関わりについて」をテーマに調査、研究し、その結果を報告書として提出しました。

このコミュニティ・スクールは、今まさに全国で進められている活動であり、今後の生涯学習の核になる可能性を大きく秘めた事業です。

市内の活動に目を向けると、各学校で様々な活動が展開されている中、例えば伊吹山中学校では、「ジュニア民生委員・児童委員」という、実際の民生委員・児童委員の方と協力して生徒が高齢者訪問を行うなどの活動をしています。

これにより、生徒は自らの活動に価値を見出し、自己肯定感を高めています。

また、民生委員・児童委員も生徒と一緒に活動をすることで、「訪問先の高齢者が明るくなった」などの効果を感じており、双方に良い効果が認められます。

このほかにも、いくつかの学校で実施しているふるさとウォークは、地域のボランティアが参加するなど、地域と子ども両方の郷土愛（ふるさとへの愛着・誇り）の醸成を助けています。

このように、学校と多世代の地域住民が一体となって、地域に根差した子どもを育てる活動が市内すべてのコミュニティ・スクールで実施されることを目指し、そのために社会教育委員として地域と学校に対して支援できることについて引き続き調査研究するため、令和3年度および令和4年度の研究テーマとして「多世代交流型コミュニティ・スクール」を設定しました。

私たちは、これからの子どもたちの育成のために確かな社会基盤を形成し、より良いものにしていかなければなりません。

現在の社会は、価値観が多様化し、子どもたちを取りまく環境や学校、先生方の働き方など、日常の社会が大きく変化する状況にあります。

これからの社会を生きていく子どもたちにとって、地域住民との関わりをつくり様々な学びと支援が得られるコミュニティ・スクールは、重要な取組であると思われます。

未来を担う子どもたちと地域がともに豊かに学び、育つ、コミュニティ・スクール事業を、地域ぐるみでより一層推し進めるため、提言書を提出します。



【ふるさとウォーク】【ジュニア民生委員・児童委員】【はびろの里防災訓練】

2 社会教育委員活動内容

本書の策定にあたって、令和3年度から令和4年度まで2年間調査研究を行いました。

令和3年度

- ・第1回社会教育委員会議 令和3年6月23日
- ・第2回社会教育委員会議 令和3年11月25日
- ・学校運営協議会視察（7校）
- ・第3回社会教育委員会議 令和4年3月25日

令和4年度

- ・コミュニティ・スクール行事視察（5校8件）
- ・第1回社会教育委員会議 令和4年10月28日
- ・第2回社会教育委員会議 令和4年12月22日
- ・第3回社会教育委員会議 令和5年2月27日

これらの会議のほかにも、県・近畿地区の各種研究大会および研修会に参加し、様々な地域の取組や課題に関する情報を収集しました。

これらの調査を基に、本市の現状を整理し、社会教育委員会議で、検討し本書の内容をまとめました。



3 米原市の課題について

1) コミュニティ・スクールの理解度について

現状認識

コミュニティ・スクールに対する地域・保護者の理解度が不明であり、ボランティア等への参加が少ない状況

委員の意見

- ・コミュニティ・スクールの活動をどのように可視化するのか
- ・コミュニティ・スクールを地域が知らないように思える。
- ・地域住民の学校への参加が弱いように感じる。
- ・保護者がどの程度活動を認識しているのかわからない。

2) 事業の評価について

現状認識

子どもの側からのコミュニティ・スクールを評価する仕組みが確立されていない。

コミュニティ・スクール行事の取組レベルに学校差がある。

委員の意見

- ・教師と地域講師の間の密な情報連携が取れていないと感じた。
- ・子どもの声が事業に反映されるとよい
- ・子どもから見たコミュニティ・スクール活動がどのように映っているのか
- ・事業を比較可能な形でどのように評価するか基準が必要ではないか
- ・取組レベルに学校差がある。
- ・コミュニティ・スクールの発展段階を客観的に把握する必要性を感じる。

3) 事業の継続性について

現状認識

地元講師や学校運営協議会委員等の担い手の育成、人材発掘が困難な状況

委員の意見

- ・役員が終わればそれで終わりになってしまっているのではないか
- ・地域講師と学校という関係だけではなく、講師同士を繋げないか
- ・地元講師の次の代が育っているのか不安

4) 教職員の負担感について

現状認識

地域連携の度合いを高め、学校に係わる人が増えるほど教職員の負担が大きくなる。

委員の意見

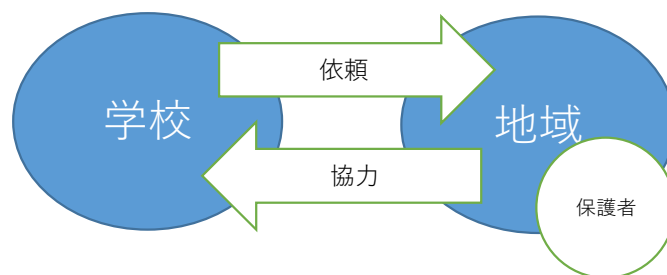
- ・地域連携の大きい事業は教師の負担が大きい。
- ・逆効果となっていないか（子ども達に先生の大変さが伝わる）

4 コミュニティ・スクールの発展段階の確認

学校運営協議会が現在どの段階にいるのか、今後どこへ向かうのか、現在地と目標を明確にすることが必要であると思われます。その指標の案を下記のとおり提案します。

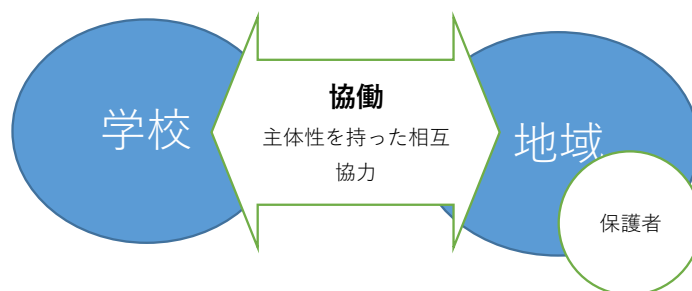
〔ステージ1 共同〕

校長のリーダーシップの下、目標達成に向けて学校・家庭・地域の連携により事業を実施します。



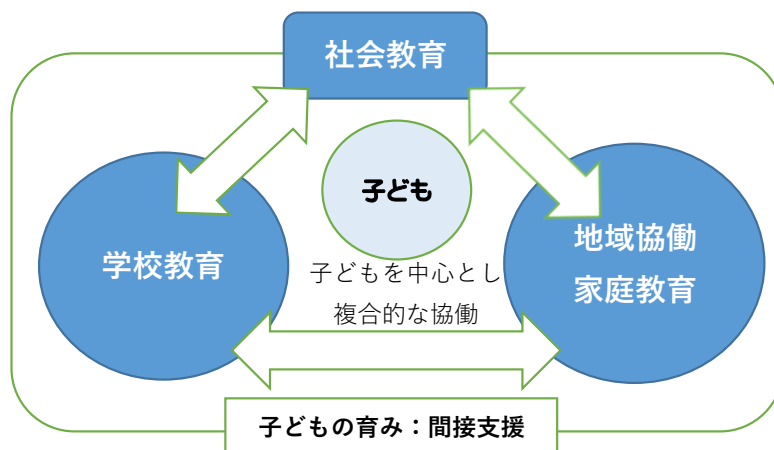
〔ステージ2 協働〕

学校運営協議会で教育目標を地域と共有し、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動が両輪として機能します。



〔ステージ3 多世代交流型〕

「地域とともにある学校」、学校を核とした地域づくりを推進し、子どもを中心に地域人材が交流し、多世代が学びあえる場とします。



5 コミュニティ・スクールが多世代交流型に発展するために

(1) 共同から協働へ

米原市におけるコミュニティ・スクールは学校が主体として、スタートした経緯があり、学校が中心となって事業提案、展開が行われている傾向を強く感じます。

そのような中、前回の報告書でも、学校運営協議会委員の重要性から、委員の人选を広く行うことや、市民の認知度向上を課題としていました。

学校と地域が協力した事業としていくためには、学校運営協議会において問題を協議し、学校の問題を地域の問題として捉え、お互いが主体性をもって活動していくことが重要です。

学校まかせ、学校だけが頑張るコミュニティ・スクールでは、学校の負担感が強くなり、学校と地域が共に高め合うことを目的とした本来のコミュニティ・スクールは実現できません。

コミュニティ・スクールを発展させるには熱意ある地域の人材を活用することが必要であり、そうした人材を確保するためにも、コミュニティ・スクールの認知向上はとても重要な事であると思います。

(2) 継続的な事業の実施

子どもたちが自己肯定感や自己有用感を持つことで、自己理解と共に他者理解を深め、社会的協調性を育むことができ、その結果、行動意欲や自らやり抜く力を向上させることが報告されています。

地域の人たちも学校や子どもの活動を支援することで、自己有用感を高めることが活動の継続につながっていきます。

さらに世代交代、継承を行うためのキーワードについて前期では「次世代交流」としていましたが、今期は人の交流の多様化を目指し「多世代交流」としました。

当会議および各社会教育委員としても、学校教育・社会教育の垣根を越えて地域・社会総ぐるみで子どもたちを支援するため、学校と家庭・地域、社会教育がともに協働し成長することができるよう力を尽くしていきます。

以上を踏まえ、多くの人々が「つながり」、「かかわり」、「学ぶ」コミュニティ・スクールのために4項目の提言を行います。



提言1 子どもの意見の把握と反映（課題1・2）

- ・子どもへのアンケート等の実施
- ・企画段階から子どもの意見を取り入れる工夫をする

〔効果〕

- ・子どもが考えた事業が実行されることで自己肯定感の醸成につながります。
- ・保護者の関心を得ることができます。
- ・子どもからの評価を得ることで、事業の方向性の確認ができます。

提言2 学校に多世代交流の場を作ること（課題1・3）

- ・学校カフェの開設
- ・空き教室の活用
サロンや会議（自治会）など地域と子どもが日常的に接する機会の提供

〔効果〕

- ・子どもと地域の大人が日常的に接する機会が増えます。
- ・普段接することのない人たちが交流する機会を設けることで、新たな人材交流や、新たな活動が創造される機会が増えます。

提言3 コミュニティ・スクールの周知（課題1・3）

- ・子どもの活動を放送する伊吹山テレビ
- ・学校事業の学区内外を問わない周知（広報まいばらへの定期掲載など）

〔効果〕

- ・地域の保護者以外の人にもコミュニティ・スクール事業の理解が進み、ボランティアの増加が見込まれます。
ボランティアが増えることで、活動が持続的になり、また、新たな活動が創造される機会が増えます。

提言4 コミュニティ・スクールの事業に対する共通理解の形成（課題4）

- ・学校関係者と地域活動団体・人材によるコミュニティ・スクールに関する共同研修
- ・各学校の取組情報の把握と共有

〔効果〕

- ・コミュニティ・スクールに関する共通理解が進むことで、学校運営協議会委員への地域からの情報伝達や共有が進み、共同から協働へ変わっていきます。